

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300492
法人名	医療法人 三善会
事業所名	グループホーム薬師谷マナー
所在地	愛媛県宇和島市川内甲2101番地
自己評価作成日	平成24年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 7月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに寄り添い、残された能力を活かし少しでも楽しく過ごして頂けるように支援しています。
------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある当事業所は、四季の移ろいを肌で感じることができる。丁寧に手入れされた庭から、穏やかに流れる水のせせらぎが聞こえてくる。利用者がゆったり、のんびりと笑って過ごせることを常に中心に考えている。リビングで利用者同士が笑顔で会話している場面が多く見受けられ、職員の細やかな配慮がある。開設10年目を向かえ熟練した職員もおり、職員研修を積極的に受けられる体制が整っていることがケアの質を高めている。笑顔を大切にしている管理者から利用者や職員に自然と笑顔の輪が広がり、事業所全体を明るく和やかな雰囲気になっている。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

## 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

## ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム薬師谷マナー

(ユニット名) 岩戸

記入者(管理者)

氏名 横濱 和枝

評価完了日 平成24年 6月 26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 各ユニットごとのスタッフで話し合い、理念を作っているが実践に繋がっていない。</p> <p>(外部評価) 基本理念と職員全員で話し合い考えたユニットごとの介護理念がある。管理者は職員が理念を理解し実践できるよう指導している。笑顔でその人らしく過ごしてもらいたいという職員の思いは、利用者に対し優しく寄り添うケアに表れている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入り、自治会活動に参加している。又日常的に散歩時等、挨拶し交流するように取り組んでいる。地域の美容院など、利用している。</p> <p>(外部評価) 溪流沿いの自然豊かな場所にある事業所周辺は住宅も多く、自治会に加入し地域の一員として役割を担うとともに、行事を把握して積極的に参加し地域との交流を図っている。地域の美容室を活用したり、定期的に和尚さんの講話やボランティア訪問もあり、利用者の楽しみとなっている。地域との本格的な繋がりや交流を目指して取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 特別な事はしていないが、運営推進会議に参加してもらい、又散歩時等日常的に交流する事により、認知症に対する理解をして頂く機会を提供できているのではないかと思う。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月ごとに開催し、地域の方、家族の方、他のホームの方、行政の方参加して頂き、色んな意見を聞き、取り組めることは取り組み、ホームの現状も報告している。	
			(外部評価) 事業所の現状や取り組みを報告して課題を話し合いサービス向上に努めている。地域の現状を良く知る民生委員や、他事業所の管理者が毎回出席しており活発な情報交換や意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、事業所の考え方取り組みを知って頂き、わからない事は相談できる関係つくりが出来ている。	
			(外部評価) 運営推進会議で事業所の報告を行っている他、連絡や相談など日常的に連携をとり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ全員身体拘束禁止、弊害も十分理解しているが、夕方どうしてもスタッフの数が少ない時、短い時間施錠する事がある。又夜間は外部からの進入、安全の為に施錠している。	
			(外部評価) 身体的な拘束だけでなく日々のケアの中で気づかないうちに言葉で行動を抑制していないかなど、常に意識して取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何が虐待に当たるか、スタッフ全員理解している。又スタッフのストレスにも気を配り、気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等に参加し理解している。他のユニットの方身寄りのない方いらっしゃる後見人の制度を利用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分説明し、その後も不明な点はその都度対応している。料金などの変更が生じた場合も家族さんに説明し、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、又来ホーム時に声かけし意見を聞いている。対応出来ることは対応している。	
			(外部評価) 担当職員が月に1回、家族に手紙を書いたり、ホーム便りの発行などで利用者の日々の暮らしの様子を伝えている。家族への電話連絡や面会などの機会を利用して、家族から意見や要望を聞いて速やかに対応している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にスタッフミーティング、ホーム長会議を開催している。意見も言いやすく、反映出来ることはしている。	
			(外部評価) 勤務年数が長い職員が多くいることもあり、管理者とは何でも話せる関係にある。職員の提案もあり、外部研修に参加しやすい体制が整えられケアの質の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者ミーティング等で各職員の状況の把握に努め、研修にも参加でき、向上心を持って働けるように勤めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は研修にも参加する事を奨励し、資格も取るように働きかけて頂いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は特定の施設との交流は認めて頂いているが、特に取り組みなどはしていない。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期に十分時間を取り、話しを聞き安心感を持って頂けるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前訪問時、契約時、十分に時間を取り、家族さんの希望を聞き不安のないように対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族にとって何が必要か？十分話しを聞かせて頂き、他のサービスを考える時もある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として教えて頂いたり、出来ないことをさりげなく支援し、一緒に生活を楽しむ関係を築くよう取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の負担にならない程度に協力してもらえる事は協力してもらい、本人と一緒に過ごす時間を作ったり共に本人を支えていく関係作りに取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの希望を受け入れ、出来る限り今までの暮らしが出来るように支援している。(例えば自宅までの送迎)	
			(外部評価) 利用者や家族から馴染みの人や場所などについて聞いたり、日常の会話の中で情報を把握し、お墓参りや生家など懐かしい場所へ訪問できるよう支援している。友人や知人が訪問した際にはゆっくりと話ができるよう配慮し、馴染みの関係がとぎれないようにしている。利用者同士の新しい馴染みの関係も構築できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間の関係が良好な時は見守り、ぎこちない時はさりげなく寄り添い、孤立しないよう働きかけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族の方から連絡がある場合は相談支援を行っているが、ホーム側からは働きかけが出来ていない	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で何気ない言葉を聞き漏らす事のないよう心がけ、本人の思いを把握するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者が笑顔でその人らしく暮らせるように、職員は日々の関わりの中で思いや意向を確認している。思いを伝えにくい利用者には、表情や行動から汲み取ったり自己決定しやすい声かけをして把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を理解する上でバックグラウンドを知る事はとても重要だと思います。プライバシーを考量しながら把握に努めています。又入居後家族、知人、面会時又本人さんとの話しの中で知りえた事も情報として記録し共有しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズム、心身の状態、出来る事解ること等のその人の全体像を把握するよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) プラン作成時なるべく家族さんにも同席して頂きスタッフからの意見、アイデアもプランに取り入れ、現状に即したプラン作りに勤めている。	
			(外部評価) 利用者や家族、関係者が日々の生活の中で気付いたことや思ったこと、アイデアなどを互いに出し合い、意見を反映した原案を担当者が作成し、管理者と話し合い職員ミーティングで確認して、現状に即した利用者主体の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式の24時間シートを活用しているが介護計画に活かさきれていない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状況を踏まえて個別に対応している。(例えば病院の付き添い、送迎、美容院への送迎、自宅までの送迎)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 美容院への送迎、買い物、等行っているが十分ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を聞き適切な医療が受けれるよう支 援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。通院は家族で対応し、できない時は職員が対 応して、その後受診結果を家族に伝えている。母体が 病院で、看護職員もいるので日々の健康管理など安心 できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常があればホーム内に看護師が2名、准看護師が2名 いるのですぐに相談できる。又同系列の医院の看護 師、主治医ともすぐに相談でき、受診等適切な治療 を受ける事が出来る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院された場合、生活の様子など情報提供し、入院中 は本人のダメージ軽減の為頻会に足を運んでいる。又 退院時には生活の注意点等、病院より説明を受け、支 援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の意見を聞きホームで出来る事、出来ない ことをお話し家族の協力の下、随時意見を確認しなが ら取り組んでいる。	今後、重度化や看取りの希望が増えることが考えられ るので、利用者や家族の希望に沿えるよう職員の話し 合いや勉強会を通して体制を整え、穏やかに納得のい く終末期を支援できるよう取り組みに期待したい。
			(外部評価) 入居時に看取りに関する指針を家族に説明し、状態の 変化があった時は随時利用者や家族と話し合っ て意向を確認している。現在初めて看取りを行 っており、利用者と家族の希望にかなう終末期が 迎えられるよう意思を確認しながら、医師と連 携を取り職員全員で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアル作成していて誰でも見ることが出来、全スタッフ定期的に普通救命講座を受けて実践力が身につくよう努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 訓練を年に2回実施し、地元の消防団とも連携が取れ協力してもらっているが2階の非難が難しく不安な点もある。  (外部評価) 事業所は川の側にあり悪天候などで水害の恐れもあるため、避難場所を確認し消防署からも指導を受けている。オール電化で火を使う事は少ないが、定期的な避難訓練を地域住民や消防団の協力を得て実施している。非常食や避難時に使う頭巾などを備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として対応している。  (外部評価) 利用者の性格や気持ちを大切にし、笑顔で優しく寄り添うケアを実践している。入浴時や排泄時は特にさりげない声かけや誘導をするよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴し観察し本人の思いを把握し自己決定出来る場面を作り働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 寄り添い希望に沿って支援したいが重度化行事通院等があり、急ぐ対応が出来ない事もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容の乱れ、季節感のない着衣等があれば、声かけし、さりげなく支援している。本人の希望にあわせ美容室など利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 会話を楽しみながら食事の準備、配膳、片づけ等一緒に行っている。食事が楽しく出来るよう会話を楽しみながら食事をしている。	
			(外部評価) 大きいテーブルを利用者と職員が囲んで、会話と笑顔のある食事の時間になっている。手作りの食事に加え、ランチョンマットや食器など食欲をそそる工夫がある。食事の準備や後片付けは利用者も職員と一緒に自然に行っており、食後のコーヒータイムも楽しみな時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 月に1度だがカロリー計算を行い、栄養バランスの参考にしている。体重測定、水分チェックを行い参考にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後その人に合わせて、声かけ一部介助全介助行い清潔が保てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりに合わせて声かけ、誘導、時間ごとにトイレに行き介助する方いろいろです。失敗されてもすぐにオムツにせずスタッフで話し合い対応を決め、支援しています。	
			(外部評価) 一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し、その時の利用者の状態や様子に合わせて誘導をしている。なるべくトイレで気持ち良く排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の弊害を十分理解している。水分繊維質の多い食材適度な運動等、心がけ声かけ支援している。Drの指示の下緩下剤の使用。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間はスタッフの都合で出来ないが、午前午後又毎日入りたい方、個々の希望に沿えるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望に合わせて、リラックスして気持ち良く入浴できるよう支援している。毎日入浴することも可能である。必要に応じて職員2人体制による入浴介助も行い、安全な入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の生活を充実させ夜間休んで頂く様に関わっているが、それでも眠れない時は安心出来るように関わり見守りしている。日中眠そうな時や体調が悪い時は、和室、又は居室で休んで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 効能、副作用等ファイルに綴じスタッフがいつでも見れるようにしている。一覧表を作り、確認するようにしている。又投薬の変更時は連絡表に記載し全スタッフが見るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの力を活かし洗濯干し、たたみ、掃除、食事の準備、出来ることをして頂き、又楽しみごと（行事、外出）を見つけ、取りいれています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 急な外出は出来ない事もあるが、週に1回食事を作らない日があり、（1.2階一緒に作る）その日を利用し外出している。	
			(外部評価) 事業所は静かな自然の中にあり川のせせらぎや鳥の声を聞くことができるため、季節の花を眺めたり周辺を散歩するなど、日常的な外出支援をしている。ドライブ等で遠出をする時は、利用者がゆっくり時間を過ごせるように、ユニット同士で協力しあって工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の能力に応じ対応している。パン屋さんが来られ、お金を使われたりする。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 望まれる時はいつでも電話がかけれる、かけれない方は代わってかけ、話して頂けるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先、ホーム裏のベンチ、玄関ロビーのソファリビングのソファ、和室等どこも整頓され明るく風が通り気持ちよく過ごして頂いています。	
			(外部評価) 目当たりの良いリビングには利用者全員で囲める大きなテーブルやソファ、畳スペースがありそれぞれお気に入りの場所でゆっくりと過ごすことができる。全体的に窓が多く通気性も良く、明るい空間には利用者や職員の共同作品や写真、観葉植物が飾られて温もりのある雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室、ソファ、ベンチがありそれぞれ好きなように過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 備え付けのベッド、ソファ、洋ダンスがあり似た部屋になっている。使い慣れた物を持ってきている方もあるが全員ではない。仏壇を持ってきている人もある。	
			(外部評価) 木目調のベッドやクローゼット、ゆったりと座ることのできるソファが備え付けてある。馴染みの小物や仏壇なども持ち込めて、利用者が落ち着いて過ごせる居室となっている。広く明るい窓からは四季折々の自然の様子が眺められる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、印、名前、等貼り自分で解る様にしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300492
法人名	医療法人 三善会
事業所名	グループホーム 薬師谷マナー
所在地	愛媛県宇和島市川内甲2101番地
自己評価作成日	平成24年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 7月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに寄り添い、残された能力を活かし少しでも楽しく過ごして頂ける様に支援しています。
-----------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある当事業所は、四季の移ろいを肌で感じることができる。丁寧に手入れされた庭から、穏やかに流れる水のせせらぎが聞こえてくる。利用者がゆったり、のんびりと笑って過ごせることを常に中心に考えている。リビングで利用者同士が笑顔で会話している場面が多く見受けられ、職員の細やかな配慮がある。開設10年目を向かえ熟練した職員もおり、職員研修を積極的に受けられる体制が整っていることがケアの質を高めている。笑顔を大切にしている管理者から利用者や職員に自然と笑顔の輪が広がり、事業所全体を明るく和やかな雰囲気になっている。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム薬師谷マナー

(ユニット名) 雪輪

記入者(管理者)

氏名 横濱 和枝

評価完了日 平成24年 6 月 28 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニットごとにスタッフで話し合い、理念をつくっているが実践には繋がっていない。</p> <p>(外部評価) 基本理念と職員全員で話し合い考えたユニットごとの介護理念がある。管理者は職員が理念を理解し実践できるよう指導している。笑顔でその人らしく過ごしてもらいたいという職員の思いは、利用者に対し優しく寄り添うケアに表れている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入り、自治会活動に参加している。又日常的に散歩時等、挨拶し交流するように取り組んでいる。地域の美容院等利用している。</p> <p>(外部評価) 溪流沿いの自然豊かな場所にある事業所周辺は住宅も多く、自治会に加入し地域の一員として役割を担うとともに、行事を把握して積極的に参加し地域との交流を図っている。地域の美容室を活用したり、定期的に和尚さんの講話やボランティア訪問もあり、利用者の楽しみとなっている。地域との本格的な繋がりや交流を目指して取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 特別な事はしていないが、運営推進会議に参加してもらい、散歩時等日常的に交流する事により、認知症に対する理解をして頂く機会を提供出来ているのではないかとと思う。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月ごとに開催し、地域の方、家族の方、他のホー ムの方、行政の方、参加して頂き色んな意見を聞き取 り組める事は取り組み、ホームの現状も報告してい る。	
			(外部評価) 事業所の現状や取り組みを報告して課題を話し合い サービス向上に努めている。地域の現状を良く知る民 生委員や、他事業所の管理者が毎回出席しており活発 な情報交換や意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、事業所の考え方、取 り組みを知って頂き、わからない事は相談できる関係 づくりが出来ている。	
			(外部評価) 運営推進会議で事業所の報告を行っている他、連絡や 相談など日常的に連携をとり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ全員身体拘束禁止、弊害も十分理解してい る。夜間は外部からの進入、安全のために施錠してい る。	
			(外部評価) 身体的な拘束だけでなく日々のケアの中で気づかない うちに言葉で行動を抑制していないかなど、常に意識 して取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何が虐待に当たるか、スタッフ全員理解している。又スタッフのストレスにも気を配り、気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し理解している。身寄りのない方いらっしゃる後見人の制度を利用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分説明し、その後も不明な点はその都度対応している。料金などの変更が生じた場合も家族さんに説明し、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、又来ホーム時に声かけし意見を聞いている。対応出来ることは対応している。	
			(外部評価) 担当職員が月に1回、家族に手紙を書いたり、ホーム便りの発行などで利用者の日々の暮らしの様子を伝えている。家族への電話連絡や面会などの機会を利用して、家族から意見や要望を聞いて速やかに対応している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にスタッフミーティング、ホーム長会議を開催している。意見も言いやすく、反映出来ることは取り組んでいる。	
			(外部評価) 勤務年数が長い職員が多くいることもあり、管理者とは何でも話せる関係にある。職員の提案もあり、外部研修に参加しやすい体制が整えられケアの質の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者ミーティング等で各職員の状況の把握に努め、研修にも参加出来、向上心をもって働けるように勤めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は研修にも参加する事を奨励し、資格も取るように働きかけて頂いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は特定の施設との交流は認めて頂いているが、特に取り組みなどはしていない。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期に十分時間を取り、話しを聞き安心感を持って頂けるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前訪問時、契約時、十分に時間をとり、家族さんの希望を聞き不安のないよう対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族にとって何が必要か？十分話しを聞かせて頂き、他のサービスを考える時もある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として教えて頂いたり、出来ない事をさりげなく支援し、一緒に生活を楽しむ関係を築くよう取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の負担にならない程度に協力してもらえる事は協力してもらい、本人と一緒に過ごす時間を作ったり共に本人を支えていく関係作りに取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの希望を受け入れ、出来る限り今までの暮らしが出来るように支援している。(友達との交流、自宅までの送迎)  (外部評価) 利用者や家族から馴染みの人や場所などについて聞いたり、日常の会話の中で情報を把握し、お墓参りや生家など懐かしい場所へ訪問できるよう支援している。友人や知人が訪問した際にはゆっくりと話ができるよう配慮し、馴染みの関係がとぎれないようにしている。利用者同士の新しい馴染みの関係も構築できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間の関係が良好な時は見守り、ごちない時はさりげなく寄り添い、孤立しないよう働きかけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族の方から連絡がある場合は相談支援を行っているが、ホーム側からは働きかけが出来ていない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で何気ない言葉を聞き漏らす事のないよう心がけ、本人の思いを把握するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者が笑顔でその人らしく暮らせるように、職員は日々の関わりの中で思いや意向を確認している。思いを伝えにくい利用者には、表情や行動から汲み取ったり自己決定しやすい声かけをして把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を理解する上でバックグラウンドを知る事はとても重要だと思います。プライバシーを考量しながら把握に努めています。又入居後家族、知人、面会時、本人との話の中で知り得た事も情報として記録し共有しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズム、心身の状態、出来る事、解る事、等のその人の全体像を把握するよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) プラン作成時なるべく家族さんにも同席して頂き、スタッフからの意見、アイデアもプランに取り入れ、現状に即したプランづくりに勤めている。	
			(外部評価) 利用者や家族、関係者が日々の生活の中で気付いたことや思ったこと、アイデアなどを互いに出し合い、意見を反映した原案を担当者が作成し、管理者と話し合い職員ミーティングで確認して、現状に即した利用者主体の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センタ方式の24時間シートを活用しているが、介護計画に活かしてきれていない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状況を踏まえて個別に対応している。(例えば病院への付き添い、送迎、美容院への送迎、自宅までの送迎)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 美容院への送迎、買い物、等行っているが十分ではない。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を聞き適切な医療を受けれるよう支 援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。通院は家族で対応し、できない時は職員が対 応して、その後受診結果を家族に伝えている。母体が 病院で、看護職員もいるので日々の健康管理など安心 できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常があればホーム内に看護師が2名、准看護師が2 名いるのですぐに相談が出来る。又同系列の医院の看 護師、主治医ともすぐに相談出来、受診等適切な治療 を受ける事が出来る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院された場合、生活の様子等情報提供し、入院中は 本人のダメージ軽減の為、頻会に足を運んでいる。又 退院時には生活の注意点等、病院より説明を受け、支 障のないよう取り組んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の意見を聞きホームで出来る事、出来ない 事をお話し家族の協力の下、随時意見を確認しながら 取り組んでいる。	今後、重度化や看取りの希望が増えることが考えられ るので、利用者や家族の希望に沿えるよう職員の話し 合いや勉強会を通して体制を整え、穏やかに納得のい く終末期を支援できるよう取り組みに期待したい。
			(外部評価) 入居時に看取りに関する指針を家族に説明し、状態の 変化があった時は随時利用者や家族と話し合っ て意向を確認している。現在初めて看取りを行って おり、利用者と家族の希望にかなう終末期が迎えられる よう意思を確認しながら、医師と連携を取り職員全 員で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアル作成していて誰でも見る事が出来、全スタッフ定期的に普通救命講座を受けて実践力が身につくよう努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 訓練を年に2回実施し、地元の消防団とも連携が取れ協力してもらっている。2階の避難が難しく不安な点もある。	
			(外部評価) 事業所は川の側にあり悪天候などで水害の恐れもあるため、避難場所を確認し消防署からも指導を受けている。オール電化で火を使う事は少ないが、定期的な避難訓練を地域住民や消防団の協力を得て実施している。非常食や避難時に使う頭巾などを備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として対応している。	
			(外部評価) 利用者の性格や気持ちを大切にし、笑顔で優しく寄り添うケアを実践している。入浴時や排泄時は特にさりげない声かけや誘導をするよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴し観察し本人の思いを把握し、自己決定出来る場面を作り、働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 寄り添い希望に沿って支援したいが重度化、行事、通院、等があり急ぐ対応が出来ない事もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容の乱れ、季節感のない着衣等があれば、声かけしさりげなく支援している。本人の希望にあわせ美容院等利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 会話を楽しみながら食事の準備、配膳、かたづけ等一緒に行なっている。(一部の人)食事が楽しく出来るよう会話を楽しみながら食事をしている。	
			(外部評価) 大きいテーブルを利用者と職員が囲んで、会話と笑顔のある食事の時間になっている。手作りの食事に加え、ランチョンマットや食器など食欲をそそる工夫がある。食事の準備や後片付けは利用者も職員と一緒に自然に行っており、食後のコーヒータイムも楽しみな時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 月に一度カロリー計算を行い、栄養バランスの参考にしている。体重測定、水分チェックを行い参考にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後その人に合わせて、声かけ一部介助、全介助を行い清潔が保てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりに合わせて声かけ、誘導、時間ごとにトイレに行き介助する方いろいろです。失敗されてもすぐにオムツにせずスタッフで話し合い対応を決め、支援しています。	
			(外部評価) 一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し、その時の利用者の状態や様子に合わせて誘導をしている。なるべくトイレで気持ち良く排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の弊害を十分理解している。水分繊維質の多い食材、適度な運動等心がけ声かけ支援している。Drの指示の下緩下剤の使用。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間はスタッフの都合で入れないが、午前・午後又毎日入りたい方、個々の希望に浴えるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望に合わせて、リラックスして気持ち良く入浴できるよう支援している。毎日入浴することも可能である。必要に応じて職員2人体制による入浴介助も行い、安全な入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の生活を充実させ夜間休んで頂くように関わっているが、それでも眠れない時は安心できるように関わり見守りしている。日中眠そうな時や体調が悪い時は、和室又は居室で休んで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 効能、副作用等ファイルに綴じスタッフがいつでも見れるようにしている。又投薬の変更時は連絡表に記載し全スタッフが見るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者さん同士で楽しみごとを作られ（歌を歌う）集まっては楽しまれている。役割が出来張り合いのある日々を送られているのは一部の人だけ。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 急な外出は出来ないが、週に一度食事を作らなくても良い日があり、（1.2階一緒に」作る）その日を利用して外出している。	
			(外部評価) 事業所は静かな自然の中にあり川のせせらぎや鳥の声を聞くことができるため、季節の花を眺めたり周辺を散歩するなど、日常的な外出支援をしている。ドライブ等で遠出をする時は、利用者がゆっくり時間を過ごせるように、ユニット同士で協力しあって工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の能力に応じ対応している。パン屋さんが来られ自分で選び、支払いをされる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 望まれる時はいつでも電話がかけれる。かけれない方は代わってかけ、話して頂けるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 階段上の踊り場、ホーム裏のベンチ、リビングのソファ和室等どこも整頓され明るく風が通り気持ちよく過ごして頂いています。	
			(外部評価) 目当たりの良いリビングには利用者全員で囲める大きなテーブルやソファ、畳スペースがありそれぞれお気に入りの場所でゆっくりと過ごすことができる。全体的に窓が多く通気性も良く、明るい空間には利用者や職員の共同作品や写真、観葉植物が飾られて温もりのある雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室、ソファ、お互いの居室、好きなように過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 足元の不安定な方、転倒予防を考えてマットを敷いている。馴染みのダンス等持ってきている方もいらっしゃる	
			(外部評価) 木目調のベッドやクローゼット、ゆったりと座ることのできるソファが備え付けてある。馴染みの小物や仏壇なども持ち込めて、利用者が落ち着いて過ごせる居室となっている。広く明るい窓からは四季折々の自然の様子が眺められる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、印、名前、等貼り一人でも解るようにしている。	